

2023年1月4日

西本 麗 社長 年頭あいさつ（要旨）

3年にわたるコロナ禍が世界経済に暗い影を落としていた中で、去年はロシアのウクライナ侵攻により食料や燃料の供給リスクや地政学リスクが一気に高まった。当社の事業環境面でも、原燃料価格の高騰、原料の途絶、物流の混乱に加えて、一部分野での顧客需要減退などのリスクが顕在化してきている。2022年度も最後の四半期に入り、先行きが非常に不透明な状況ではあるが、年度予算目標達成に向けて全社一丸となって取り組んでいく。

昨年4月にスタートした中期経営計画はスタートダッシュに成功したが、2024年度目標やKOEI Vision2030の目標の達成に向けては、事業環境の厳しさを考えると、更なる飛躍が必要で、広栄化学の「経営理念」に今一度立ち返り、価値観を全員で共有したうえで、チームワークにより何倍もの力を発揮し、積極果敢に挑戦し続けることが必要である。

広栄化学をより良い会社にするために「風通しの良い職場作り」や「コミュニケーションの一層の改善」が大変重要であり、会社としても、引き続き管理社員のマネジメント力の一層の向上を図るとともに、中堅・若手社員をはじめとする社員の育成にさらに注力して担当業務のプロとして力を発揮できるよう支援していく。また、人材の確保、定着率の向上のための新たな施策として採用活動での社員からの紹介支援策も実施する。

各部署では多くの経験の浅いメンバーを指導しながら業務の推進に相当なご苦勞をされているが、今一度ルールや取り決めの遵守を徹底し、引き続き安全・安定操業の確保に努めていただきたい。昨年のコンプライアンス推進月間中に、各職場で全員参加によるリスク項目の洗い出しと対応策の議論を行っていただいたが、全社的な対応も検討し、会社のコンプライアンスリスクの低減に努めていく。

新型コロナウイルスの感染が収まっていない中、インフルエンザの同時流行も引き続き懸念されている。2月から千葉工場はSDM体制に入るが、各部門では改めて基本的な感染対策を徹底し、業務を遂行していただくようお願いする。

以 上